

## 御礼に「無事に」と書けなかったトラブルについて

先の野球文化大学夏期東京集中講座の終了にあたって、「無事に終了しました」とごあいさつすべきところ「無事に」を削除してご報告しなければならなかったトラブルが発生してしまいました。

初めて「修了生」が誕生し、野球文化大学の“遊びごころ”がようやく皆さんに認知されはじめた時期に、こんな案件が発生したことはとても残念なことです。

問題になっているのは、今期も講座をお願いしたE氏と堀学長代理（及び野球文化大学）との間で生じたトラブルです。具体的には、講座の聴講生の前でE氏が学長代理の名誉と信頼とを損なう誹謗中傷をしたというものです。

これまで最終的な事実確認をするとともに、先方のマネジメント会社とのメールのやり取りなどがあったため、ご報告が遅れました。

ことの経緯をざっとご説明します。

ご存じのように野球文化大学は、ただ野球に関する講座を主催することが目的ではなく、原則その講座を映像資料として公開すること、テキストを刊行することが大きな柱となっています。

それは従来のアカデミズム、野球ジャーナリズムでは取り上げることのなかった人材の講座、斬新でユニークなテーマをテキスト化、映像化して世に発信していこうという“真摯なお遊び”であり、出版と映像メディアのあらたな可能性を模索してみようという試みでもあります。

もちろん講座を受け持たれる講師の方には、映像化とテキスト化を前提にしたい旨を事前に説明し、ご理解いただいています。

今回のE氏の講座開講に当たっても、前回の同氏の講座のテキストをご用意して、聴講される方にお見せできるようにと、制作に取り組んできました。

しかし、なにぶんスタッフの片手間、ボランティア作業のため、文字起こしからレイアウトに至るまでの編集作業が予定通りには進まず、出稿前の最終段階でご本人に校正いただく時間が取れなくなってしまいました。

そこで堀学長代理の方から「とりあえず今回の講座用に10部発注しようと思います。よろしくご理解のほどを」とグラのデータを添付してE氏にメールをお送りしました。

それに対して、「著者校する時間はないのか？」との問い合わせの返信メールがあったので、「今回の10部だけは『手土産』として、というお願いです。どうしても看過できない部分があれば、廃棄します。」と回答したところ、「了解」との返信メールあったので、そのまま講座用に準備しました。

ところが、いざ講座がはじまるや否や（厳密には講座前のマクラで）E氏はいきなり、そのテキストが本人の了解を得ずに勝手に制作した「海賊版」であり、その制作の責任者である学長代理が常識も踏まえられない加減な人物であると誹謗中傷しはじめたのです。

今回も映像資料として講座の様子は撮影していましたが、その一部始終を確認いたしました。その内容はここにそのままご紹介するのがためられるほど悪意に満ちた罵詈雑言のオンパレードでした。とても文化人を自称される方の言辞とは思えない悪態が、そこでは繰り返らばられていました。

その結びで「何なら、このあとモメると思います、僕と堀さん」と言い捨てたように、初めからトラブルにすることを決めていたらしいE氏は、講座が終わってからも当学とは関係ない人物にまでその中傷を広めたばかりか、事前に当事者のご了解を得てYouTubeに公開していた講座の一部の動画にまで噛み付いてこられました。

この動画は前回E氏の講座に『教材』として出演いただいたI氏のライブ映像で、ご当人に編集したものを確認の上ご了承いただき、案内役として登場されているE氏にも「不都合があればご連絡を」とメールしたところ、「ありがとうございます」との返信があって5月29日にアップしたものです。

それを、7月13日の講座の後になって八つ当たりのように「「ユーチューブに勝手に上げている」さんの動画をすぐに削除しなさい。これは法的措置も辞さずです。」と唐突に学長代理に脅迫まがいのメールを送りつけてきたのです。

「一体どうせえっちゃんな！」との、堀学長代理の困惑、嘆きがわかるうというものです。

今回のE氏の堀学長代理に向けられた誹謗と中傷はまた、野球文化大学の“真摯な遊びどころ”が冒涇されたと同義でもあり、とても残念であり心外です。

当学の“遊びどころ”、ユーモアを解しない『常識人』であり、また、人間関係に寛容と理解の前に批判と非難を先んじる『厳格の人』であることを知らずに講座のお願いをしてしまったことは、当方のいたらなさというほかはありません。その点では、E氏にもご迷惑をおかけしてしまいました。

せっかく講師陣に名を連ねていただいたE氏でしたが、残念ながら今回のことを持って退任していただくことになりました。

今回E氏の講座を聴講された方、関係者スタッフの皆様にご不快な思いをさせたことは申し訳なく、反省しきりです。

E氏のいう「法的な手続きも辞さずです」の対応をお待ちしている状況で、事態は未だ収まったわけではありませんが、ここまでE氏の言い分のみが一部で一人歩きしていますので、ここに事実関係を公開しておきたいと思います。

ご本人からの謝罪もなく（その必要を認めておられないのかもしれませんが）、マネジメント会社にも誠意が見られず、このような発表になったことについては遺憾であり、また残念でなりません。

尚、動画に関するメールの公表についてはご本人も了解されているとかで、そのまま使わせていただきました。

2018.08.01

野球文化大学事務局